

千枚田を守り抜いた、偉大なる先人たちへの鎮魂の灯火
『お田植え感謝の夕べ』

ともしび

四谷の
千枚田だより



第81号

・箕の笠で植える棚田のそばにきて
雨だかえろとかわずうるさく
・ケロケロと雨を喜ぶかわずども
(舜)



元 加藤先生親子

みんなで灯ろう 千枚田

いつ 平成22年6月5日(土)午後7時から

(雨天の時は、6月6日(日)午後7時から)

どこで 四谷の千枚田
だれが 参加していただける方(参加自由)
なにを 希望者で、千枚田の沿道を「**ろうソク**」で灯します。
(ライター等の点火道具をご持参ください。)

「ろうソク」で灯された千枚田を鑑賞しながら有意義なひとときを過ごしましょう。

お願い 駐車場がありません。できる限り「トコトコ」徒歩で。
それと、飲酒運転は絶対しない様に！

当日は、協力費箱を設けます。皆様の善意のご協力を！

こども陣太鼓も出演！

連谷お助け隊

打ち上げ花火もあるらしいよ 楽しみ～



協力：愛知県ふるさと指導員

新城高校農業クラブの育農学習

五月八日、農業クラブのメンバーと自主的に参加した生徒、約四十名は、昨年八月に開催した「生物多様性アジアユース会議」(愛知 2009)に県内から参加した学生(十四名)



を中心に、生物多様性に関する取り組み内容を話し合った結果、自分たちに身近な「食」をテーマに、農業体験等を行うことを提案、愛知県環境部の仲立ちで新城高校の千枚田の実習田で田植えに参加、栽培体験をした。学生たちは「連谷お助け隊」の原田英史から湧き水を源流にした棚田の生きものと共生した体に優しいコメづくり、自然環境等を学んだ。

豊橋調理製菓専門学校食育学習

五月十三日、将来プロを目指す学生約四十名が四谷の千枚田の実習田で田植えを行った。例年、田植えから収穫までの生育調査や自然豊かな田んぼの生き物などをテーマに学園祭などで成果を発表。この、取り組みに市民や父兄にも好評を得ている。

○棚田ライステラス

第五十四号(三月二十五日)

発行：全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集：ふるきやらネットワーク

棚田が結ぶ腐れ縁の石井里津子ルポから一週間以内に千六百字の原稿を依頼された。以前にも強引に書かされた経緯と、毎年サミットで顔をあわせる間柄。どうも美人(元)ルポライターには弱い。そこで「サミットを機に企業など」都市住民と繋がって」と題して元気のよい四谷の千枚田を売り込んだ。

○月刊 食料と安全

(財)全国瑞穂食糧協会から平成二十一年度田園自然再生コンクール農林水産大臣賞受賞関連の出筆依頼(約八千字)があり「棚田の保全とモリアオガエルなど希少種の保全・再生に向けて」と題して執筆、五月号(毎月十五日発行)に掲載される。

○(東海)じやらん 六月号

古き良き田舎にタイムトリック

四谷の千枚田コース

新緑の鞍掛山を背景に、棚田や民家の石積、田んぼの湧水が奏でる、これぞ日本の原風景。と題して掲載された。

○おかしん(岡崎信用組合)広報誌六月号(二十五日発行)の表紙に四谷の千枚田の水鏡や代かき、お田植え感謝祭など、多彩に掲載される。

○アサヒスーパードライ

またまた、春バージョンとして「千枚の水鏡」がポスターやテレビコマーシャルで賑わっている。

一本につき一円が愛知県の環境保全活動に寄付される。俺も、私も貢

献していると思うと・・・ついつい、もう一本と、缶を重ねてしまう。

棚田大好き

「三河の山里ツーリズム」(行政主導)で毎年、稲作体験を重ねてきたが、本年は中止となった。四年連続で参加した早風さん親子を中心に二十数名が棚田を満喫したいと、建つての願い。

都市住民が自発的に田舎体験を試みるまでに成長させた行政の役目と棚田の魅力を大きく感じ、二枚の田んぼを準備、五月十六日には田植えに訪れる。

横浜ゴム植樹祭参加

五月二十二日、横浜ゴムにおいて「千年の杜第二期植樹祭&国際生物多様性の日世界グリーンウェーブ」が行われる。同社は千枚田における新入社員研修や環境に優しく育てられた稲藁を高価額で購入していたり交流が深い。この植樹祭には保存会、お助け隊も参加します。

鞍掛山麓千枚田保存会総会

五月二十二日、連谷会館において午後七時から開催します。

平成二十二年五月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

文責 小山舜二